

お知らせ

「一宮町役場庁舎建設を考える集い」



(現 一宮町役場庁舎)

日時 9月25日(日) 14:00~16:00

場所 ホテル 一宮シーサイドオーツカ フェニックスホール

内容 ・一宮町役場庁舎建設に関する意見、提案の発表
・討論会

皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

意見発表者を募集しています。

庁舎建設についてお考えをお持ちの方、
ぜひご応募ください。

詳しくは
裏面を
ご覧下さい

一宮町役場庁舎建設検討委員会について

平成22年8月2日~平成23年3月23日まで計8回(うち5回を公開、別途視察として1回)の委員会が開かれました。検討および確認した内容は以下のとおりです。

1. 本委員会は町長の個人的な諮問機関である
2. 現庁舎は昭和42年竣工で耐震上問題がある
3. 建設場所は東北関東大震災の教訓を生かし白紙とする(3月11日以前は現状敷地が最有力候補地とされた)
4. できるだけ借金をせずに建設する
5. 議場は併設するが運用形態(専用議場か多目的利用か)に関しては今後議論を要する
6. あらゆる年齢・健康状態の人が利用しやすく省エネに配慮された合理的運営のできる施設であること
7. 庁舎建設は地元業者が携われるしくみとするべき

※委員会での資料等は一宮町ホームページでご覧になれます(下記)。

<http://www.town.ichinomiya.chiba.jp/info/gyosei/963.html>

(平成23年4月16日 朝日新聞)

一宮町
新庁舎計画白紙に
大震災で建設地再検討

今回の地震と津波被害で、巨費を投じて一宮町の新庁舎建設計画が白紙に戻り、建設場所の再検討が始まっている。昨年8月に決定した町役場庁舎建設検討委員会は、建設場所を現在の庁舎敷地内としたが、震災後の3月23日に玉川孫一郎町長に提出された報告書では「大震災を教訓に再度検討したい」と結論を棚上げしていた。

玉川町長によると、住民からは、もっと内陸部に建設地として、巨費を投じて一宮町の新庁舎建設計画が白紙に戻り、建設場所の再検討が始まっている。昨年8月に決定した町役場庁舎建設検討委員会は、建設場所を現在の庁舎敷地内としたが、震災後の3月23日に玉川孫一郎町長に提出された報告書では「大震災を教訓に再度検討したい」と結論を棚上げしていた。

玉川町長によると、住民からは、もっと内陸部に建設地として、巨費を投じて一宮町の新庁舎建設計画が白紙に戻り、建設場所の再検討が始まっている。昨年8月に決定した町役場庁舎建設検討委員会は、建設場所を現在の庁舎敷地内としたが、震災後の3月23日に玉川孫一郎町長に提出された報告書では「大震災を教訓に再度検討したい」と結論を棚上げしていた。

玉川町長によると、住民からは、もっと内陸部に建設地として、巨費を投じて一宮町の新庁舎建設計画が白紙に戻り、建設場所の再検討が始まっている。昨年8月に決定した町役場庁舎建設検討委員会は、建設場所を現在の庁舎敷地内としたが、震災後の3月23日に玉川孫一郎町長に提出された報告書では「大震災を教訓に再度検討したい」と結論を棚上げしていた。

「一宮町役場庁舎建設を考える集い」と、意見発表者募集について

未来の上総一宮をつくる会代表
学習院大学教授 馬淵 昌也

去る3月11日の東北地方太平洋沖大地震、および引き続いて起こった津波によつて、町内で被害にあわれた皆さま方に、また言葉では言い表せないほどの甚大な被害を蒙った東北地方被災地の皆さまに、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興の成就をお祈り申し上げます。

今般の地震と津波は、一宮町では、幸い東北地方ほどの被害を出すには至りませんでした。皆さまご存知の通り、一部の地区で床上・床下浸水の被害をもたらしました。そして、この地震と津波の経験は、海岸域に広がる自治体における、防災意識・施策の根本的見直しを迫るものとなりました。

一宮町では、これを受けて、防災マップの見直し、避難路・避難所の再配置、避難訓練の実施や防災意識啓発活動などを行っています。地震・津波の恐ろしさをありありと感じている今、防災は町民ひとりひとりとつとて最大の関心事のひとつであるといえます。

また、折から、老朽化した町役場庁舎の立替問題が起こっておりますが、この問題の検討も、地震・津波の経験を経て、根本的な見直しを迫られることになりました。建設用地・建設形態など、各方面からの全面的な再検討が必要であると誰もが考えることとなり、町当局でも候補地の検討が行われていること、皆さまお聞き及びの通りです。

町役場は、町の各種情報の収集・発信の中心であります。平時の町づくりの中核となる存在であるばかりでなく、災害時、あるいはその後

においても、緊急対策・復興対策のセンターとして機能することが期待される司令塔的存在です。その建設問題は、単に現在のみの問題ではなく、将来にわたつて、危機に瀕した場合も想定に入れつつ、今後の一宮町が発展してゆく姿、すなわち町のブランド・デザインを考えながら進めてゆくべき、町民にとつて最も重要な問題のひとつといえます。

私ども、未来の上総一宮をつくる会では、この問題は、行政サイドにのみゆだねておくべき課題ではなく、幅広く町民全体で考えてゆくべき大事な問題であると考えます。そこで、役場庁舎の建設問題を、防災との関連の上で、広く町内の皆さまとご一緒に語り合う機会を持ちたいと考えるに至りました。お一人でも多くの皆さまにご来場頂きたく、ここにご案内申し上げます。

庁舎の候補地・建設形態などについては、皆さま、様々な考えをお持ちのことと思えます。本会では、今回の集まりでは、直接町内の方々のご意見を承ることが大事だと考え、町内在住の方で、この問題について、ご関心を深くお持ちの方々に、ご自身のお考えを広くご披露頂く、という形で進めさせて頂きたく存じます。

具体的には、以下のような要領で、ご発表のご意志をお持ちの方のご参加を募らせて頂きたく存じます。この問題に関してご意見をお述べになられたい、とお考えの方々には、幅広い皆さまとその認識を共有する良い機会にならうかと存じます。志をお持ちの方々に、是非ともご応募いただきたく存じます。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

なお、ひとこと申し添えますが、本会は、特定の候補地を推す意志は全く持っておりません。あくまで皆さまとご一緒に一から考えたいという姿勢で臨ませて頂く所存です。

記

会の名称

一宮町役場庁舎建設を考える集い

日時 9月25日(日) 14時～16時

場所 ホテル一宮シーサイドオーツカ
フエニックスホール

意見発表 応募要領

募集チーム数 5チーム

発表形式 一人または複数人による
プレゼンテーション

持ち時間 1チーム10分以内

必須検討内容

- ①建設場所および選定理由
- ②房総沖地震を想定した防災の考え方
- ③今後のまちづくりとの関連について

募集締め切り 8月31日

応募必要資料 住所・氏名・ご主張の要約
(A4一枚程度)

提出先 〒299-4301

一宮町一宮3604-1 福岡 庸一

TEL・FAX 0475-4214211

メール mirano1nomiya@yahoo.co.jp

以上